

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第70号 2024年11月28日

発行 中部学院大学 宗教委員会 〒501-3993 岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24-2211
中部学院大学短期大学部

人となったロゴス（神のことば）

八木橋 康広（中部学院大学短期大学部 宗教主事）



2024年のクリスマスを迎えるにあたり新約聖書「ヨハネによる福音書」の冒頭にある「言」（ことば）の意味について学んでみたい。

この原語は logos（以下ロゴスと記す）という。ロゴスとは一言で言うと、「真実のことば」ということになると思う。それは天地の外にある神ご自身のことばである。つまり「真実のことば」とは「神のことば」なのだ。しかし聖書は最初の人間アダムとエバが悪魔の化身であるへびにそそのかされて禁断の木の実を食べて神に対して罪（原罪）をおかして以来、人類は真実の言葉を発することができなくなってしまったと証言している。

原罪におかされた人間の言葉は、その上辺は人間を神のように高める「知恵の実」のごとき見せかけをまとっているが、実のところは、人間を腐敗堕落させ死に至らせる嘘偽り・妄語を際限なく紡ぎ出す恐るべきものとなってしまった。このような妄語は、アダムに始まって彼のすべての子孫に、つまり全人類の心の深層にこびりついていて、誰一人としておのれの力ではぬぐい去ることはできない。

しかし人間の魂は、本来的には罪におかされた妄語ではなく「真実の言葉」なくしては生きてゆ

けないものである。なぜなら、たとえどれほど深く原罪という「死に至る病」に心身が冒されていても、人間の本性は「神の似姿」だからである。魂は本来の姿に戻ることを欲してやまないからである。そのような罪と死にまみれて地上をさまよい歩く人間に、神は天の高みからご自身の言葉＝ロゴスを送（贈）った。

ヨハネ福音書の冒頭によれば、ロゴスとは、天地万物に先立って存在していて、神と共にあり、この世界のすべての被造物は一つの例外もなくロゴス（神のことば）によって創造された。ロゴスはまた、まだ存在しないもの、すなわち死と混沌の世界に吹き込まれたまことの命と秩序であり、暗闇に閉ざされた世界を照らすまことの光でもあり、虚偽の牢獄から人間を解放する真理とまことの自由でもある。

このロゴスは天上の彼方よりこの地上に降って一人の人間となった。ナザレの人イエスがそれだ。そしてイエスを魂の救い主として信じる者には「神の子」となる資格が与えられる、とこの福音書では証言されている。「神の子となる」とは、「暗闇」（罪）にまみれた朽ちるべき心身の中に、真実の言葉と永遠の命が宿るということに他ならない。以上をヨハネ福音書の言葉で要約すると「言（ロゴス）は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは

父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた」(1:14) となると思う。

マタイによる福音書とルカによる福音書の冒頭にあるイエスの誕生物語では、このような「恵みと真理」一人間にとっての本当の愛や幸福や救いとは、深い苦悩や葛藤を突き抜けたところで、人智を超えた神の側から指し示される、ということが物語られている。そこで人間にできることは、

それを信じて受け入れることだけであって、そのような魂の決断と行動のただ中で、神の独り子としてのまことの栄光がこの世に現れ出でる、ということが証言されているように思えてならない。

このようなロゴスの働きを各人の魂が発見し味わうことで、御子イエスの降誕を祝う 2024 年のクリスマスであることを祈る次第である。

サンタさんが与えてくれるもの

高木 総平 (学院宗教総主事)

クリスマスに人気 No1 は間違いなくサンタクロースです。サンタクロースの起源は、カトリックの聖人、聖ニコラウスだと言われています。17 世紀にアメリカに移り住んだオランダ人にとって、船乗りや商人の聖人である聖ニコラウスの日、12 月 6 日は大切な日だったのです。そのオランダ人の風習に、聖ニコラウスの日の前の夜ニコラウスが子どもたちへのプレゼントを持ってくることがあったということです。それが 19 世紀になって、クリスマスの前の晩にサンタクロースがやって来るという言い伝えに変わっていききました。

そのサンタクロースは、小柄な老人として描かれたり、大柄な老人に変化したりと変遷があったのですが、ある業者が作ったクリスマスカードから赤い服が定着したそうです。特にコカ・コーラが宣伝に使った赤い服の大柄な白ひげを蓄えた姿が世界中に広まりました。

このような経緯から商業ベースの存在だとも言えますし、多くの家で両親がプレゼント購入にお金をかけている現実があります。それにもかかわらず、小さい子どもたちはその存在を疑うことなく、少し年長の子どもたちは半信半疑、もっと冷めた子どもたちはお父さんがデパートで買ったんだと言いつつも、何か暖かい思いを持って「やは

りサンタさんは来るのだ」と思う心もどこかにあるのです。もしかしたら多くの大人の心にもあるのかもしれませんが。これは貧しい人たちや病人を助けたとか、船乗りを守ったという聖ニコラウス伝説から流れているものがそこにあるからかもしれません。いうまでもなくその原点は、イエス・キリストにあるのです。

昔ある著名な心理学者が言った言葉を思い出しました。それは「サンタクロースが与えてくれるもの、それは夢だ」そのような言葉でありました。言い換えるとサンタクロースは、心の中に存在していると言えるのでしょうか。確かに子どもたちにとって玩具やお菓子のプレゼントは嬉しいに違いないのですが、その背後にいるサンタさんが一番のプレゼントではないでしょうか。そしてまた大人たちにとっても、サンタさんは、ほとんど失ってしまった「子どもの心」を甦らせてくれる存在なのではないでしょうか。

*『よくわかるクリスマス』教文館 2014 を参考にしました。





クリスマスキャロル

清水 大輔 (看護リハビリテーション学部 理学療法学科 准教授)



私と妻は芝居好きである。クリスマスにちなんだ芝居の話をする。わたしの最初の任地は英国リバプールであった。ヨーロッパではチャイコフスキーのバレエ「くるみ割り人形」のようにクリスマスの頃になると必ず上演される演目がある。日本では年末になると「忠臣蔵」が上演されるのと同じような感じである。英国ではディケンズの「クリスマスキャロル」がいろいろな形で上演される。英国では日本と違い、すべての座席が前売りで売られるのではなく、必ず当日券が売られる。そういうわけで英国にいたときには芝居を見に行くのに前売りを買わずに行くのがわたしたちの習慣であった。

ある年のクリスマスシーズンにロンドンで、パトリック・スチュワートが一人芝居で「クリスマスキャロル」をやっているというので、それを見に行こうということになった。皆さんはパトリック・スチュワートをご存じであろうか。スタートレックのテレビシリーズ「The Next Generation」にピカード船長として出演した俳優である。映画では X-Men シリーズのプロフェッサー X 役が有名である。私はスタートレック依頼のファンであ

り、とても楽しみにロンドンに向かった。

朝から当日券を買いに行ったのであるが、午前9時半にはすでに売り切れで、とてもがっかりした。売り場からしょんぼりしながら出ていくと、一人の紳士が近寄ってきた。チケットが2枚あるので買わないかというのである。劇場の近くでチケットが買えなかった人に話しかけるのは大体転売屋と相場が決まっている。私たちは身構えた。しかし、その紳士がいうにはその日のソワレを見るためにチケットを2枚買ったのだが、行けなくなったとのことだった。払い戻しに来たのだが、払い戻しには応じてもらえず、チケット売り場から出てきたところだったようであった。チケットが無駄になるので、額面通りの金額で買ってくれないかということだった。わたしたちはそのチケットを譲ってもらい、観劇に出かけることができた。劇場に行き、通された席は当日券では手に入らないボックス席であり、しかも、その公演で最も良い席であった。その公演は英国で観た芝居の中で最も印象に残るものであった。その出来事から20年ほどたつが、今でもその紳士には感謝している。私たちにとってサンタクロースである。

「2024 年度中部学院大学・中部学院大学短期大学部 クリスマス献金」

Pray for the World

今年も主イエス・キリストのご降誕をお祝いするクリスマスの季節がやってきました。クリスマスは、主イエス・キリストがご自身のすべてを人々の幸せのために捧げつくしたことから、私たち自身の一部を少しでも人々の幸せのために捧げ合うことを実践する季節です。

今年の献金は、国内外の災害被災地及び活動団体への支援を継続して覚えたいと思います。

皆さん、温かな思いをもってご献金ください。よろしく願いいたします。

なお、昨年は 171,892 円の温かい献金をいただき、19 の施設・団体、活動に献金いたしましたことをご報告いたします。

募集期間 2024 年 11 月 27 日(水) ~ 12 月 25 日(水)

献金予定先: 大災害の被災地のために [能登半島の震災、豪雨の被災地をはじめ災害被災地]
地域の諸活動のために [野宿生活支援の会・岐阜、岐阜いのちの電話、キリストへの時間、愛知老人コミュニティセンター、あゆみの家、新隣館他]
世界の諸活動のために [ミンダナオ子ども図書館 (フィリピン)、アハリ・アラブ病院 (パレスチナ・ガザ地区)、ジョセフ記念教育基金 (スリランカ)]

◎関キャンパスは総務課カウンター、各務原キャンパスは事務室に設置しています。クリスマス献金箱に献金ください。ご協力をよろしく願いいたします。



2024年度 クリスマス礼拝

「おめでとうとは思えないおめでとうがおめでとう」

日本基督教団四日市教会 牧師 三野 慶仁 先生

日 時：12月23日(月) 11:00～12:20
(第2時限の講義は行いません。)

会 場：関キャンパス グレースホール

ルカによる福音書 1章26-38節

誰しもクリスマスと聞いて真っ先に思い浮かぶのはサンタさんのようです。その証拠に、ネットで「クリスマスイラスト」と画像検索すると、サンタとツリーばかりが出て来ます。サンタは聖書に出て来ませんし、本来クリスマスとは何の関係もありませんから不思議な気がしますが、サンタクローズの元となったセント・ニコラウスの記憶日(正教会の聖人を覚える日)が、彼の命日である12月6日と、聖遺物とされた遺体がイタリアに移された12月19日で、たまたまどちらもクリスマスのある12月だったことが影響したようです。しかも彼は、ミラ(現在のトルコ辺り)でキリスト教の主教をしていました(紀元3世紀から4世紀にかけて)。そこから1000年以上の年月をかけてクリスマスに結びつけられて行った訳ですが、そのストーリーを語り出すときりがないので端折ります。ただ、キリスト教であることと彼の記憶日が12月に二日あること以上に、彼の人物や信仰によるところが大でした。聖ニコラウスは非常に優秀でしたが、とても人間味あふれる人物でもあったのです。子供や弱い立場にある人たちを大切に、愛をもって手を差し伸べるのに、褒められたり、もてはやされるのが嫌で、善行は決して他人に見られないようにするシャイな人でした。そうかと思うと、ニケア公会議で三位一体の教理について話し合っていた時、どれだけ話し合っても三位一体を否定して聞き入れようとしないうりウスをぶん殴って破門されてしまうという熱い心の持ち主でもありました(後に波紋は解かれる)。また、若い頃は相当なイケメンだったようで、聖ニコラウス目当てに改宗する若い女性が後を絶たなかったという逸話もあります。色々調べていると、彼は誰もがイメージする典型的な聖人君子ではなく、欠点や弱さを持ちつつ隣人を愛した等身大の人間だったように思います。"人はみな罪人"だと聖書は語りますが、「罪」と訳されているハマルティアは「的を外す」という意味の言葉です。「誰かのために」とか「共に生きる」ことが正しいと思えても実行が難しいのは、基本的に人は自分しか愛せないからです。そんな私たちの的外れさを打ち破ったのがイエス・キリストであり、クリスマスがその始まりでした。自分しか愛せない自分とは別の自分のあることを、ご一緒に聖書のクリスマス物語から聴いていきたいと思います。聖人君子になりなさいと言うのがキリスト教の教えではありません。聖ニコラウスのように、欠点があって人間臭くて外的を外さない生き方への招きが私たちへのクリスマスプレゼントです。

ルカによる福音書 1章26-38節

六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みを受けた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。

その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。

神にできないことは何一つない。」マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

◆プロフィール

1961年高知県生まれの63歳。四児の父。A型。てんびん座。ひらめき型。趣味はバイクと写真。小学生の時、伯母から教会へ誘われたのがキリスト教との出会い。洗礼を受けたのは中学3年生の秋。十字架上のキリストの言葉「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです(ルカ23章34節)」に衝撃を受け、この方に自分をお委ねしようと思った。更に、学生時代に体調を崩したことが契機となり、牧師になることを決意。自分のために生きるのをやめようと大胆なことを真剣に考えてしまった。親から勘当同然で神学校に学び牧師となったが、その傍ら、教会以外の多くのボランティア活動にも関わらせていただいた。教会という垣根を越えて多くの方々と関わり学ばせて頂きたかったのだろう。